

## 編集後記

わたくし自身はヴァイキング世界のはるか北西に関心をよせているのですが、このたび機会をいただいて、東方への調査旅行に参加させていただくことができました。旅行の準備段階から報告書の編集作業まで、なにかの役に立ったかと問われれば我ながら疑問ですが、枯れ木も山のにぎわいだと思っていただければさいわいです。(伊東 豊)

調査旅行への参加は今回が2回目でした。部分参加の前回とは異なり、今回は現地案内人探しからビザ取得、報告書の編集まで深く関わることになりました。現地では、オレクシイ博士のアレンジのおかげで、キーフ、チェルニヒヴの古跡を存分にめぐることができ、大変貴重な体験をさせていただきました。報告書も出て、これでひと区切り、ヤレヤレ、と言いたいところですが、実は、チェルニヒヴのコワレンコ博士から学生考古学会議で発表するよう招待を受け、4月にふたたびウクライナに行くのです。博士から「日本人が発表すること自体に意味がある」と言われて、微妙な心持ちですが、せいぜい刺激を受けて帰ってこようと思います。なお、ウクライナ語固有名詞の表記に関して、表紙等では、まだ日本人にとって馴染みがあると思われるロシア語表記を採用しました。各原稿中では、おのおのが方針を立て、表記の統一をはかるようにしました。( ・ )

環バルト海研究会の現地調査報告書はこれまで、名古屋大学情報文化学部・人間情報学研究科のディスカッション・ペーパーとして、1999年の第1回から2003年の第3回まで隔年に出された。本会は不定形で会長の制度もないが、実質的にはそれに近い立場にいた熊野が名古屋大学を定年退職し、第4回報告書は熊野の新しい勤務先、豊田工業大学から刊行されることになった。ここにはいままでディスカッション・ペーパーの前例がなかったので、その了承からスタートし、その第1号が「第4回報告書」と銘打つことになった。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。これまでの現地調査では、ボーンホルムなど行きそびれたところも多く、北大西洋をふくめて訪れるべき場所はたくさん残っている。したがって今後ともプランは続くであろうが、それでも今回、バルト海の西端から始まったシリーズが東端の延長を果てまできたとの感慨は深い。(熊野 聡)

---

環バルト海研究会 第4回現地調査報告書  
(豊田工業大学ディスカッションペーパー No. 05-1)

発行	2005年3月31日
編集・発行	環バルト海研究会
連絡先	〒468-8511 名古屋市天白区久方2-12-1 豊田工業大学 熊野聡 Tel. 052-809-1753 E-mail: kumano@toyota-ti.ac.jp
印刷	豊田工業大学印刷部

---

Discussion Paper №. 05–1  
Toyota Technological Institute

# **The 4th Field Research Report: The Society for the Baltic Rim Region Studies**

(Kyiv, Chernihiv, Shestvitsa. July 26–August 2, 2004)

Edited by Eiichi Imamura, Yutaka Itoo, Satoru Kumano(editor-in-chief)

## Contents

Koichi Ichihara (Oita Univ.)

### **State formation of the West-Slavs in the early Medieval ages**

Yutaka Itoo (Nagoya Univ.)

### **Thor and his goats**

Eiichi Imamura (Nagoya Univ.)

### **The archaeology of Podil in the 1970s**

Satoru Kumano (Toyota Technological Institute)

### **Visiting the Middle Dnipro area**

Hidenori Kadoya (Tsuyama National College of Technology)

### **Birka's role in a historical context**

### **—Sweden and Russia in the Viking age—**

Satoru Kumano (Toyota Technological Institute)

### **Kaupang, a trading "town" in the Viking age**

### **—Report on a lecture by prof. Dagfinn Skre, Oslo University—**